

# 赤江地域自治区 地域協議会だより

第51号 令和5年12月  
発行 地域協議会事務局  
宮崎市赤江地域センター  
電話 51-4274

第2回定例会（8月17日）の協議事項

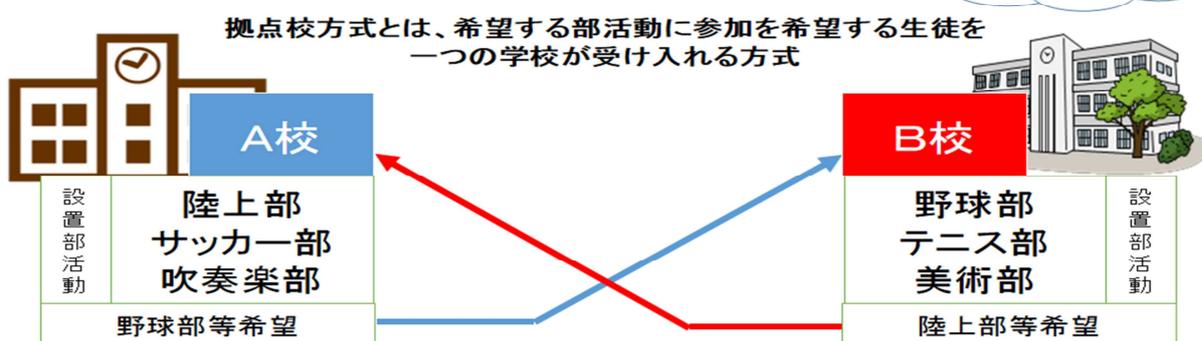
## ① 令和5年度部活動地域連携・移行について

### 赤江中・赤江東中がモデルエリアに選ばれました！

- 赤江東中学校は、元々赤江中学校が分離してできた学校であり、学校間の距離が近いこと、顧問以外の部活動指導員が9名ほどいることから、赤江エリアを選定したとのこと。
- 国の働き方改革を踏まえた持続可能な部活動と教師の負担軽減を両立する。

## 拠点校部活動について

拠点部活動って  
どんな部活？



### メリット

- 自分のやりたい種目で、専門性のある指導者から指導を受けられる
- 練習相手や練習の質が高まる
- 教員の負担軽減

### デメリット

- 移動が生じるため、交通手段を確保する必要が生じる
- スケジュール調整が難しくなる



### 生徒の活動パターンについて

|                       | 平日                  |   | 休日          |
|-----------------------|---------------------|---|-------------|
| 活動パターン I (従来型)        | 今まで通りの活動            | ➡ | 今まで通りの活動を行う |
| 活動パターン II (休日合同型)     | 平日は別々に練習            | ➡ | 休日は合同で練習    |
| 活動パターン III (平日・休日合同型) | 平日も一緒に活動            | ➡ | 休日も一緒に活動を行う |
| 活動パターン IV (平日・休日別活動型) | 平日は別の活動<br>または何もしない | ➡ | 休日は別の活動を行う  |

## ② 赤江地域の課題「高齢者対策と地域コミュニティの連携を図る方法」について

- 高齢者の生活支援対策に絞って、グループ協議を実施しました。出た意見は下記のとおりである。
- 民生委員の方が、訪問しても、玄関先に出てこられない方も多く、困りごとの把握ができていない。
  - 自治会の班長さんも1年で交替される方も多く、支援の必要な高齢者の把握ができていない。
  - 自治会加入率が低い地域が多く、自治会の清掃活動等に参加される方が少ないこともあり、高齢者のニーズを把握できていない。
  - アンケート調査で出てきた高齢者の困りごとは、庭木の剪定、電球の交換、買い物、話し相手、ゴミ出しなどがあげられた。こういう困りごとの対策を誰が支援をしていくのかを考えなくてはならない。

「地域まちづくりのあり方検討会」に係る意見交換及び地域協議会での意見集約

- 宮崎市では、佐土原町、高岡町、田野町の合併を機に地域自治区制度を導入し、17年が経過する。人口減少や高齢化等の社会環境の変化に対応するために、また、地域のまちづくりが将来にわたり持続可能なものとなるよう、令和5年1月に「地域まちづくりのあり方検討会」を設置し検討を行ってきた。今後は、地域協議会の意見等を踏まえ、宮崎市独自の地域まちづくり制度の見直しを行っていく。
- 検討を要する事項（課題）に対する取組（施策）の方向性について
- ・地域協議会の会議内容の形式化と住民組織の二重化・重層化は赤江地域の課題でもある。
- 地域まちづくりの人材発掘・育成について
- ・赤江地域には、高校が3校、中学校が3校あることもあり、中高生のボランティア協力を得る。
- 地域コミュニティ活動交付金の効果的な活用
- ・事業提案制度を導入し、新たな事業を提案してもらうことは有効だと考える。
  - ・赤江地域は広域であり、協力して活動することが難しい。区域割を検討いただきたい。
- 以上を赤江地域協議会の意見として地域コミュニティ課に提出した。

赤江地域の課題「高齢者対策と地域コミュニティの連携を図る方法」について

- 宮崎市地域包括ケア推進課より第2層協議体について説明があった。第2層協議体とは、高齢者に関する地域課題を解決するための集まりのこと。2025年に団塊の世代の皆さんが75歳を超え、超高齢化社会が始まる。地域の困っている高齢者を地域に住む住民で支える仕組みをつくることで、人材不足問題を解決できないかということである。
- その対策として第2層協議体を設置して、課題解決に向けて協議を進めていければ良いのではないかとの話があった。他の地域の具体的な事例や活動内容についても説明があった。

☆ 地域協議会委員の意見 ☆

- ・赤江地域は範囲が広いうえに、社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会が東と西に分かれており、同じ活動にまとめていくことは難しい。
- ・高齢者支援のボランティアについて人材を募集することは、なかなか難しい。
- ・ボランティア活動についても有償か無償かで意見が分かれるが、有償でやるほうが頼むほうも頼まれるほうもやりやすいのではないかと考える。
- ・第2層協議体という言葉もそうだが、新たに組織をつくることは、また人集めをしないといけない。地域協議会の回数を増やしてでも協議したほうが、効率的ではないか。

結果 ～ 第4回定例会では、結論が出ないままで次回以降の地域協議会で協議を続けることになった。



◎自治会に加入しましょう！  
◎地域まちづくり推進委員会の事業に参加しましょう！